【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成29年2月9日(2017.2.9)

【公表番号】特表2016-523640(P2016-523640A)
【公表日】平成28年8月12日(2016.8.12)
【年通号数】公開・登録公報2016-048
【出願番号】特願2016-522307(P2016-522307)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　1/00　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　23/24　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　1/00　３００Ａ
Ａ６１Ｂ　1/00　Ａ
Ｇ０２Ｂ　23/24　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成28年12月28日(2016.12.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
外管（１２）および該外管（１２）の内側に配置された内管（１４）を有するシャフトと、前記外管（１２）の外側に前記外管（１２）と同心円状に配置された外側連結部分（２０）、および前記内管（１４）の内側に前記内管（１４）と同心円状に配置された内側連結部分（２６）を備える非接触磁気連結（１）とを備え、前記内側連結部分（２６）が、前記外側連結部分（２０）と前記内側連結部分（２６）との間の磁気作用による接続によって、並進移動および／または回転移動が可能であり、前記外管（１２）と前記内管（１４）との間の間隙において、導光ファイバ（４０）および／または導電体が通って案内される、内視鏡であって、
前記間隙の磁界の回転対称性は破れている
ことを特徴とする内視鏡。
【請求項２】
請求項１に記載の内視鏡であって、
前記内側連結部分（２６）は、前記外側連結部分（２０）の内側に偏心配置されている
ことを特徴とする内視鏡。
【請求項３】
請求項２に記載の内視鏡であって、
前記導光ファイバ（４０）および／または導電体は、内管（１４）と外管（１２）との間の距離が最大の領域に束で配置されている
ことを特徴とする内視鏡。
【請求項４】
請求項１～３のうちの１項に記載の内視鏡であって、
前記導光ファイバ（４０）および／または導電体は、前記間隙を完全に充填しておらず、前記束によって充填されていない前記間隙の少なくとも一部には、１．５～７０の透磁率を有する充填材料が配置されている
ことを特徴とする内視鏡。

【請求項５】
請求項４に記載の内視鏡であって、
前記透磁率は、５～１１である
ことを特徴とする内視鏡。
【請求項６】
請求項４または５に記載の内視鏡であって、
前記充填材料（５０）は、合成材料を備え、
該合成材料は、磁性の粒子と混合されている
ことを特徴とする内視鏡。
【請求項７】
請求項６に記載の内視鏡であって、
前記磁性の粒子は、軟磁性の粒子である
ことを特徴とする内視鏡。
【請求項８】
請求項４～７のうちの１項に記載の内視鏡であって、
前記導光ファイバ（４０）および／または導電体は、前記内管（１４）を完全に囲まない束として、前記間隙を通って案内されている
ことを特徴とする内視鏡。
【請求項９】
請求項４～８のうちの１項に記載の内視鏡であって、
前記充填材料（５０）は、導光ファイバ（４０）および／または導電体が配置されていない間隙の部分を実質的に完全に充填する
ことを特徴とする内視鏡。
【請求項１０】
請求項４～９のうちの１項に記載の内視鏡であって、
前記導光ファイバ（４０）および／または導電体の少なくとも一部は、前記充填材料（５０）を通って、あるいは前記充填材料（５０）における開口部を通って案内されている
ことを特徴とする内視鏡。
【請求項１１】
請求項４～１０のうちの１項に記載の内視鏡であって、
前記内視鏡シャフトの長手方向に並進距離を有する磁気連結（１）によって、前記充填材料（５０）が、前記非接触磁気連結（１）の並進距離の全長に沿って延在している
ことを特徴とする内視鏡。
【請求項１２】
請求項１～１１のうちの１項に記載の内視鏡であって、
前記内視鏡は、ビデオ内視鏡である
ことを特徴とする内視鏡。